

IV スギ材の効率的な葉枯らしシステムの開発

(実施期間：平成 29 年度～31 年度 予算区分：県単 担当：桐林真人)

1 目的

鳥取県産スギ材の原木価格向上のため、葉枯らしに要する具体的な期間や乾燥の状況、材色改善効果を数値化して、葉枯らし施業の取り組みを振興する。

2 実施概要

(1) 方法

智頭町宇波地内の 70 年生スギを、雪解け後（5月上旬、n=6）と晩秋（10月下旬、n=7）に伐採して葉枯らしに供し、乾燥の進行具合を調べた。乾燥状況は、応力波伝搬時間(SPT)計測器 FAKOPP を使った定点間での SPT 計測（図 1）による、期首値との相对比较とした。また同時に木口での材色を色彩計により定点計測し、その変化を調べた。

(2) 結果

計測の結果、①雪解け後の伐採では、前年実施の梅雨前や盆過ぎの伐採に比べ乾燥の進行は遅いこと、②晩秋伐採では冬期間にほとんど乾燥せず、半年経過しても乾燥の進行程度が低いこと、が明らかになった(図 2)。また、乾燥に伴って、木口の心材色が一般的な赤心材の材色に近づくことも数値的に明らかになった(図 3)。

3 結果の図表と研究の様子



図 1 冬期の計測状況

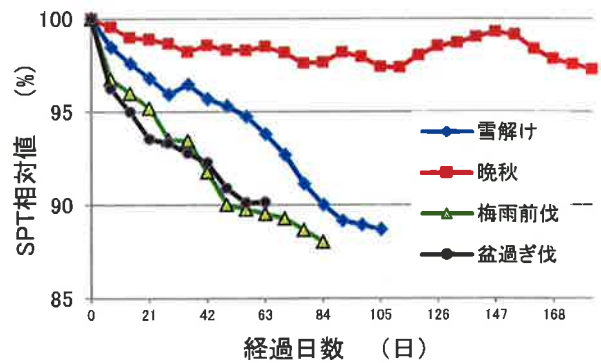


図 2 伐採時期による乾燥の進行の違い

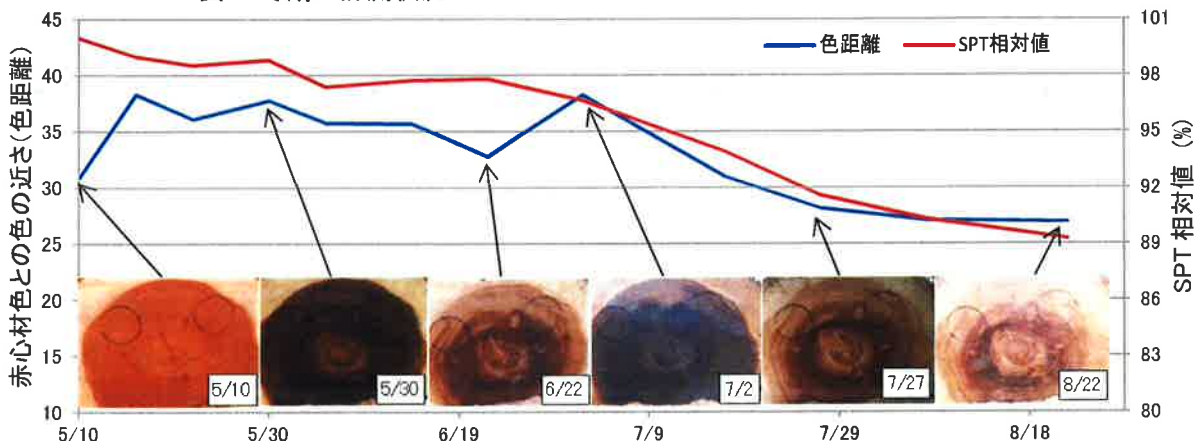


図 3 木口の心材色の変化と乾燥の進行の例(雪解け伐採 No.6)
(色距離の値が小さいほど一般的な赤心材の色に近い)